

女性の活躍の現実と意識

女性の活用が社会の中で大きな課題となっている中、その現状と企業や組織における問題点、さらには働く女性の意識などについて、昭和女子大学の坂東眞理子学長に語っていただきました。

坂東眞理子 昭和女子大学学長

1969年東京大学卒業後、総理府入府。埼玉県副知事、オーストラリア・ブリスベン総領事、初代内閣府男女共同参画局長などを務め、2003年に退官。2004年に昭和女子大学教授となり、2007年より学長。著書に「女性の品格—表いから生き方まで—」など。



会社選びと配偶者選びは慎重に！

私が就職をした頃は、民間企業が女性に採用試験さえ受けさせてくれなかった

時代。それが1985年の男女雇用機会均等法の成立以降、育児休業の導入など、制度面はかなり充実してきました。とはいえ、世界経済フォーラムが発表する、2013年の日本のジェンダーギャップ指数(各国の男女格差を図る数値)は136か国中105位。以前に比べれば日本でも女性の社会進出が進んできてはいるものの、これが現実です。その背景には、企業の姿勢が不十分という面もあるでしょう。確かに、女性が働きやすい環境に向けて、さまざまな制度を導入していますが、必ずしも利用しやすいわけではない。さらに、女性の管理職への登用も進んでいませんし、そもそも現場の中間管理職の男性が女性をマネジメントすることに慣れていない。ここに大きな問題があります。

配偶者の意識もまだ低いですね。家事や子育てに理解がある男性が増えてきているものの、ほとんどが「余裕があればお手伝いしようか」というレベル。欧米のように当事者意識を持って「シェア」するレベルにまで高める必要があります。女性の皆さんには、会社選びは慎重にすること。ぜひこれを強調したいですね。

もう一つ、女性の皆さんに言いたいことは、与えられた仕事をこなすだけでなく、自分で課題を発見し、乗り越える覚悟やパワーを持ってもらいたいということです。これがなければ、企業の管理職なども務まらないと思います。

恐らく、その前提になるのが、将来のキャリアプラン、ライフプランでしょう。実際、昭和女子大学でも1年次からキャリアプランについて指導しているほか、多様な経験を積んでいる社会人(メンター)に対して、卒業後のキャリアプランやライフスタイルについて相談できる「社会人メンター制度」を整備するなどしています。

今回の座談会の内容を見ても、女子学生の多くは、仕事を続けたいと願っています。社会経験を持つ先輩の話からは、いろいろな職場があり、多様な働き方があることがわかります。

女性の皆さんにも、ぜひ長期的な視点で仕事や自分の価値観などをとらえて、進むべき道を探っていただけたらいいですね。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方についての5か国比較(2010年)



(注)20歳から49歳までの男女を対象に各国1,000サンプル回収を原則とした個別面接調査
出典:内閣府政策統括官(共生社会政策担当)「少子化社会に関する国際意識調査」(2011年3月)より作成。
日本では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えへの賛成派が約6割を占めている。

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識(さいたま市)



出典:さいたま市男女共同参画に関する市民意識調査(平成24年1月)

を実感できる分、学生時代よりも今の方が楽しいですね。

水野(彩) 労働力人口が減っている中で、これからは女性も働き続けなければいけない時代。その中で、どのように女性が働きやすい環境をつくっていくか、社会全体で考えていくべき問題だ



杉平 やはり私たち、女性の「意識」も重要なんです。私自身、男性と同じように働けるのか、不安なところもありますが、意識を変えることから始めたいです。

柴崎 正直、「将来は専業主婦がいいかな」という気持ちもありましたが、自分にふさわしいキャリア形成に向けて、もっと考えていく必要があると実感しました。

誰もが働きやすい環境に向けて 男性・女性の意識の共有が不可欠

水野(友) 女性の意識も変えていかなければいけないのかもしれない。実際、私の職場でも、昇進に関しては男女差が存在しますが、それは意欲の差によるところも大きいと思います。男性の方が昇進に必要な資格なども積極的に取得していますから。

平田 昇進・昇格問題も含め、女性が働きやすい社会に向けて、私たち自身も声を挙げていく必要があります。同時に、男性の意識の変革も欠かせません。制度の充実のもと、組織の中に子育てに理解がある上司がいるかどうかという点も重要な要素になるはずです。



齊藤 ジェンダーとは女性固有の問題ではなく、社会全体にかかわる問題だと、大学で学びましたが、労働環境の問題も同じですね。誰もが働き続けられる職場づくりに向けて、男性・女性双方が意識を共有し、取り組むことが不可欠だと思いました。

鈴木 それが男女共同参画社会の第一歩ですね。これまで、結婚や出産について深く考えていませんでしたが、今後は、しっかりとそういうことも頭に入れて就職活動に臨みたいですね。

通信員のコメント

平川 和明さん

仕事、育児、家事、介護、趣味等から総合的にキャリアを考えると良いと思います。そして職場や社会に働きかけ、育児家事等に理解のある男性を増やすこと、女性が経済的に自立できる環境を作ることが重要と考えます。

真々田 崇さん

学生時代の友人などを見てみると、やりたい仕事にこだわる人よりも、やれる仕事を黙々とこなす人の方が、公私ともに順調な人が多いようです。就労時間の多様な誰かが能力相応に働きやすい環境が必要と感じます。

杉本 佳子さん

女性のキャリア形成でのヤマは間違いなく出産です。そこを乗り越えるには、仕事への誠実さや働く姿勢を見せることで、周囲の意識を変えていくしかないと思います。働くママとしての実感です。

吉田 龍太郎さん

学校という、対等な取扱や平等な処遇が比較的進んでいる場所では気にしたことすらなかった問題に、突然ぶつかる場合も少なくないと聞きます。その落差が、あきらめではなく、気付きや改善につながればと思います。